

TOPIC 10
10/4
スポーツを通して楽しく
国際交流を深める

バドミントンふれあい事業

スポーツ国際交流員と幼児との「バドミントンふれあい事業」が庶路学園体育館で開かれました。スポーツを通じて幼児との国際交流を深めるとともに、子どもたちの体力向上を図ることが狙いで、1回目となるこの日は、庶路こども園の年長組9人が、スポーツ国際交流員のヘンドロ・ブディ・スラハマンさんと「風船バドミントン」をしました。園児たちは、風船を床に落とさないよう必死に追いかけて、終了後は「とても楽しかった」と笑顔で話していました。



ヘンドロさんと風船バドミントンを楽しむ園児たち



記念講演を行う古川さん

TOPIC 7
10/2
いつまでも健康な体で

第17回「しらぬか健康まつり」

町の三師会と町民保健推進委員会が主催する「第17回しらぬか健康まつり」が総合体育館で開催され、約90人が来場しました。脳年齢などを測定した伊藤節子さんは「一度に多くのチェックができるので、今後の健康づくりに役立てたい」と話していました。11時からは同会場で、町民保健推進委員会の設立40周年記念講演が行われ、釧路赤十字病院糖尿病センターの古川真副センター長が「自分自身で体のメンテナンスをすることが大事」と話していました。



全道大会での健闘を誓った選手たち

TOPIC 11
10/6
一致団結して優勝目指す

全道大会出場報告会

ななかまど杯第28回北海道小学生バレーボール大会（10月15・16日、江別市）に出場する庶路ビクトリースポーツ少年団と第40回北海道中学校駅伝競走大会（10月16日、新得町）に出場する白糠陸上少年団の選手が役場を訪れ、川島真澄教育長に健闘を誓いました。庶路ビクトリー代表の三栖絆喜君は「一致団結して練習の成果を発揮し、優勝目指して頑張ります」、白糠陸上少年団の渡邊心暖さんは「初めての駅伝大会、チームに貢献できるように頑張ります」と誓いました。

TOPIC 8
10/2
町青年団体が
白糠を盛り上げる

白糠プチ産業まつり

「白糠プチ産業まつり」が旧白糠小学校グラウンドで開催され、多くの方が会場を訪れました。漁協や農協、商工会青年部が子どもたちに地元の産業について理解を深めてもらおうと、企画したイベントです。会場では魚や肉が販売され、その場で焼いて食べることができるほか、子どもの「魚つかみ取り体験」や「バター作り体験」などが行われました。会場を訪れた武藤和枝さんは「買ったものをその場で食べられるのがいいですね」と話していました。



つかみ取りで取った魚は、無料で参加者に配られました

TOPIC 12
10/6
園児たちが人形劇を楽しむ

子ども芸術文化鑑賞会

教育委員会主催の「子ども芸術文化鑑賞会」が公民館で行われ、こども園の園児など91人が2人だけの人形劇団「えりっこ」の人形劇を鑑賞しました。上演されたのは、身の回りにある紙コップやストローなどをキャラクターに変身をさせた「赤ずきんちゃん」と違った色・形で生まれたアヒルの子が本当の自分に出会う物語「みにくいアヒルの子」の2つの演目。園児たちは生きているかのように動く人形を食い入るように見つめ、最後は大きな拍手を送っていました。



「赤ずきんちゃん」を披露する人形劇団えりっこの2人

TOPIC 9
10/4
せんべいの試作品完成

陽向ぼっこが新商品を開発中



せんべいを手に取る儀同代表（左）

NP0法人陽向ぼっこ（儀同一義代表）は、町の活性化や雇用の創出につながればと、地元食材を使った「せんべい」の新商品開発を進めています。この日はタコ、イカ、ホッキ、ツブ、カニ、エビ、ホタテ、シカ肉の8種類のせんべいを試作。試作品を試食した儀同代表は「まだ何も味付けはしていないけれどおいしい。見た目も迫力があっていいと思う」と感想を述べ「これを基に来年4月の販売に向けて、改良を重ねていきます」と話していました。